

議会報告 瑞風

みずかぜ

発行人 中林たかし

中林たかし事務所
雲南市加茂町神原 838
電兼 FAX 49-6373



昨年十一月に行われた雲南市長並びに雲南市議会的一般選挙で市長に速水雄一氏（加茂、四期目、七十歳）、市会議員は二十二名（現職十九名、元職一名、新人二名）が当選しました。この新しいメンバーによる雲南市議会が十二月に開催され今後四年間の雲南市行政を担っていくことになりました。

定例会に先立ち、十一月二十八日に臨時議会が招集され議長や副議長の決定選挙が議員により行われました。新議長には藤原信宏氏（三刀屋、四期目、六十五歳）、副議長には山崎正幸氏（大東、四期目、六十六歳）が選出されました。執行部態勢では副市長に引き続き藤井勤氏（木次町、六十八歳）が再任されたほか、新教育長に景山明氏（三刀屋町、六十歳）が新任されました。そして、旧加茂町時代から二三年八ヵ月にわたって教育行政の道を歩んでこられた土江博昭氏はこの度、任期満了によりご勇退されることになりました。今までの豊富な経験、幅広いネットワーク、卓越した手腕により雲南市の教育行政の発展に寄与されたことに感謝の意を表したいと思っています。

十二月定例会開会



十二月九日から定例会が開催されました。四期目を迎えるにあたって、速水雄一市長から所信表明演説があつたのに続き、補正予算の質疑と採決、一般質問が行われました（中林たかしの一般質問については裏面に掲載）。

各委員会メンバー一新

現在、議会には三つの常任委員会が設置されています。総務常任委員会、教育民生常任委員会、産業建設常任委員会です。中林たかしは教育民生常任委員として向う二年間務めてまいります。議会のメンバーが新しくなったことで各常任委員会を構成するメンバーが新たに決まりました。その他、予算審査特別委員会、議会広報広聴特別委員会、島根原子力発電対策特別委員会が設置されています。

市立病院新本館工事進む

雲南市立病院の新本館建設工事は平成二十七年九月から始まっていますが、年末には基礎部分である免震ピット（地震エネルギーを吸収する免震装置を据え付けた地下室）工事が完了しました。

基礎部分の完成に伴い、一月からいよいよ鉄骨建方の工事が始まります。三月までには大方の鉄骨が組み上がりますので、工事が順調に進めば桜の咲く頃には新本館の姿がたちが見えてくると思います。平成三十年三月の新本館開院を目指して工事が進められており、工事の安全を祈願するものです。



また、併せて市道阿用停車場線の改良工事も進められています。同線は新本館の正面入り口に直結した道路となることから幅員の拡幅や側溝の整備を行っているものです。



建設が進む市立病院（中央台形部分が新館、右が現在病棟）

ご存知でしたか？

高齢者等タクシー料金助成制度

雲南市には高齢者や障がい者等の方々の外出時の移動手段を確保するため、タクシー利用等の場合の利用料金の助成制度があります（雲南市高齢者等タクシー利用料金助成事業実施要綱）。

この制度は市内のタクシー会社で利用できるもので、平成二十四年四月から運用が始まっています。タクシー以外にも市民バスも利用できます。対象となる方や利用金額は裏面の通りです（概要の説明です。詳しくは実施要綱、総合センター窓口でご確認ください）。

続 裏面

項 目	説 明（制度の概要）
対象交通機関	市民バス、だんだんタクシー、市と契約したタクシー
利用対象者	6 5 歳以上の高齢者 身体障がい者手帳所持者 ほか
乗車券の名称	優待回数乗車券
乗車券の種類	100 円券（緑）12 枚綴 600 円 200 円券（橙）12 枚綴 1,200 円
利用上限額	タクシー 1 乗車あたり 1,200 円
購入額と購入メリット	券面額の半分で購入できます 1,200 円迄は半額で乗車できます （1,200 円超は自己負担）
購入方法	市役所、総合センターで購入
購入限度額	今年 3 月までは上限がありません

なお、この制度は、平成二十九年三月末までとなっており、四月以降は利用対象者や利用金額、購入限度額等の変更が予定されています。

たかつさんの一般質問

中林たかしは初議会で次の二点を一般質問で一问一答方式で行いました。（要旨）

木次線の存続と活性化

問

三江線は廃止が決まったが、木次線は開業百周年を迎えた。木次線は雲南市の重要な社会インフラであり存続させていかなければならない。木次線存続に向けた市の姿勢、決意について伺う。

答（市長）

通学や病院への通院等多くの利用者があ。地域の衰退傾向に歯止めをかけ活性化の起爆剤になり得るので、木次線は存続されなければならぬと強く思っている。

問

木次線の現状について伺う。

答（政策企画部長）

高校への通学、雲南市立病院への通院などで年間二十六万人、トロッコ列車は年間一万四千人の利用者がある。

問

営業係数（百円の収入をあげるのに要する費用）はどうか。

答（政策企画部長）

民間のデータによれば八百二十七・五となっている。大変厳しい数字である。

問

国の推計でも雲南市の総合計画でも人口の減少が予想されている。人口が増えない以上、観光客などで利用増加を図る必要がある。トロッコ列車は更新時期を迎えて

いるが観光列車への対応方針を伺う。

答（政策企画部長）

トロッコ列車は平成三十一年の更新に向け関係機関と協議を進めている。

問

トワイライトエクスプレス瑞風が今年から運行を始める。周遊地を巡るのに専用バスばかりでなく木次線に乗車してもらってはどうか。また、全国各地ではSLや昔懐かしいジールカーを使ったイベントで人気を博している。アクションを起こして活性化につなげてもらいたい。

答（政策企画部長）

関係機関に提案していく。まずは、雲南の魅力を堪能していただく実績作りから取り組んでいく。

建設産業対策について

問

島根県内の公共工事量はピークに比べ六十七％、建設業の許可業者数はピーク時に比べ二十二％それぞれ減少している。雲南市内の場合はどのような状況か。

答（総務部長）

雲南市の公共工事は平成十七、八年頃は四十四～四十五億円であった。平成二十五年以降は二十億円を下回る状況にある。

問

建設業者は雇用や地域経済への波及効果をはじめ、冬季の除雪作業、災害時の緊急支援など重要な役割を担っている。重要な産業と認識しているが事業存続に向けた対策について伺う。

答（市長）

建設関係の企業は地域経済の担い手として活躍してもらっている。仕事量や企業数は右肩下がり傾向にあるが、こうした状況が放置されることがあってはならない。企業に頑張ってもらえるような様々な施策を講じていく考えである。

問

平成二十八年九月、大東町遠所地内で県道の落石・土砂崩れが発生し通行止めになっている。迂回路を通らなければならない状況が続いているが、復旧のめどは。

答（建設部長）

復旧工事に向け用地調査が進められており、平成二十九年三月末の完成を目指して工事が進められている。

問

市道で同様な危険箇所は何カ所あるか。

答（建設部長）

対策が必要な箇所は二十八カ所ある。特に緊急を要する三刀屋町内の一カ所は九月補正により対策工事を実施中。

問

残りの危険箇所二十七カ所の解消めどはいつごろか。

答（建設部長）

毎年三カ所～四カ所程度のスケジュールで対策工事を行う予定。金額も含め流動的な面もあるが順次進めていく。

答（市長）

計画を立てても年三～四カ所のペースでははかどらない。中山間地にはこうした箇所があるということを国が目向けるべきと考え、十二月一日、県道路建設課、松江国道事務所、中国地方整備局の担当者に現場を視察してもらった。

問

大東町内の建設業者数が減っている中、除雪対応が懸念される。遠所の迂回路は市道であり、県道と市道で除雪作業に差異があつては市民が不便をこうむる。関係機関との協議状況について伺う。

答（建設部長）

除雪作業についても県と協議を詰める。

明けましておめでとうございます。

議会報告を創刊しました。

今後も宜しくお願い致します。



（たかし）

ただ、注意して頂きたい点があります。
①券は譲渡できない、②有効期限が今年の三月末となっており、年度末に使い残しがあつても換金できない、③市内の契約業者のタクシーしか使えない（市内のタクシー会社は全部使えます。松江や出雲の業者のタクシーには使えない）、などです。